平成　26　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0471200683		
法人名	有限会社　みんなの家		
事業所名	グループホーム　みんなの家		
所在地	宮城県登米市中田町宝江新井田字並柳前57番地		
自己評価作成日	平成　26年　10月　2日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	NPO法人　介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡４－２－８　テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成　26　年　11　月　28　日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

小規模多機能介護施設として、同じ敷地内に通って時々泊まって、そして住むこともできる施設もある。その事から地域の多くの方々が、そして地域を超えて利用して下さりグループホームの利用者の方々と交流があり、とても賑やかである。また、グループホーム内に認知症デイサービスがあり、通ってかられる方がいる事でゲームやレクリエーションをしたりと楽しみも多い。出来る事・出来ない事を把握しホーム内で行う家事や趣味活動等、生き甲斐や役割をもって生活している。外出も遠出の旅行や、天気のいい日には予定がなくても出かける、買い物にも気軽に出かけるそんな今まで家庭で送ってきた、普通の生活が出来るように支援をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

田園風景の中に住宅が点在している環境に古民家調のホームは、オール床暖で入居者にとって快適な環境である。冬場は敷地内いっぱいのイルミネーションは「みんなの家」此処にありと入居者、地域の方々に向けた大イベントである。見学に来た子供達に、入居者からプレゼントが送られたり、楽しみとなっている。通所に3名の利用者を迎えて共に過ごす等、制度を活用した地域貢献をしている。開設して8年目になり入居者の状態低下も顕著であるが、現状維持に向けて職員は理念を掲げた頃の気持ちに立ち返り、入居者一人ひとりに寄り添い、会話を多く持ち、思いを引き出した支援に取り組んでいる。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名　グループホーム　みんなの家　　)「ユニット名　　」

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	本来ある理念「地域や家族とのつながりを大切にします」を大切にしながら、またGH独自の理念「寄り添って」「お話を聞く」を念頭に全職員ケアに当たっている。	状態低下が顕著にみられており、現状維持に向けた取り組みに努めようと理念は継続とした。担当制で、1対1で関わり入居者の思いに寄り添うケアや家族と信頼関係を築く支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設主催の各種行事に地域の皆さんをご招待したり、逆に招待を受け足を運び利用者のみならず、職員も共に交流を深めている。地域の防災訓練にも参加している。	「はっとFM」で地域向けに介護教室の案内を流し、参加者を募り、相談等は各専門知識のある職員が対応する。地域の祭り(十三講祭り等)に参加し、踊りや歌を楽しんだり、情報共有の場となり地域交流がなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的な家族介護教室の開催や相談を受ける「井戸端カフェ」を開催し足を運んでもらっている。また、施設見学や実習生の受け入れも積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度運営推進会議を開催し、各種関係機関や地域の代表、家族にもご参加してもらい忌憚のない意見をいただいたり、地域の情報をいただいたりしている。	偶数月に、行政、地域包括職員他の参加で開催している。介護保険制度の説明や地区に住む高齢者の情報等、種々の情報を得たり、避難訓練時の助言等、有意義な会議が開かれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のメンバーとしても参加してもらい、意見や指導してもらう情報をもらうなど協力関係作りに努めている。	今年度から、行政の方が運営推進会議に参加するようになった。介護保険制度にまつわる話や、ヒヤリハットの内容を説明している。日常は包括職員とのやり取りが多く、行政に出向いて相談したりすることはあまりない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者個々に合わせた対応を常に話し合い対応し、開所当時からある「身体拘束排除宣言」を元にケアに当たっている。	年間計画に研修を組み入れ、拘束による弊害を理解している。新人向けに、先輩職員から具体的な事例に基づいた説明をしている。建屋内は施錠することなく、出入りが自由で職員は、入居者一人ひとりの特徴を把握し見守り、拘束の無いケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、毎年研修計画に組み入れて勉強している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前利用されていた方も成年後見制度の利用があり勉強しながら対応していたが、現在も1名申請中で勉強する機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はもちろんの事、申込時にも相談や疑問を受け、早々から施設の見学・説明をすすめ実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には家族と一緒に利用者本人にも職員から進んで話しかけるようにし、状態報告をした上で会話の中から意見が出やすい様にしている。また、運営推進会議にも家族の参加があり、市や地域の方にも意見を出していただいている。	「みんなの家」便りや、担当から状況報告をしており、家族からの意見は特にない。面会時に入居者の様子を見て、家族が思っている以上に症状が進んでいることで驚かれる事もあり、状態を説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議で場を設けて意見を聞くようにしている。また、定期・随時に個人的にも面談の機会を設けている。	行事の飾り付けのアイディアや外出に行けない入居者の対応等、入居者にまつわるケアの意見が多い。入居者に係わる時間を多くもってほしいと、職員の昼食、飲み物代は会社が全額負担している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長がいつでも個々に話が出来たり相談できる状況で、なおかつ現場にもよく顔を出して様子を見たり、話が出来る環境にある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修会の参加推奨を実践し、内部研修にも積極的に参加できるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会への積極的な参加、交換研修への瀬s積極的な参加を進めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所事前面談から本人の要望・不安等を聞き取り、入所後に関しても積極的な関わりや傾聴の姿勢で関係づくりをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人同様不安や要望を聞き取り、また苦労話などにも傾聴し安心感を持ちサービスを受けていただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当していたケアマネージャーより情報収集し、家庭での状況や本人の状態を把握した上で対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な関係にならず、助け・助けられ何事も一緒に楽しく暮らす、を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には家族との時間を大切にできるよう配慮しつつ、少しの時間職員も一緒に話をし家族と相談できる時間を持っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人なじみの場所へ買い物やドライブに出かけたり、併設のDSではなじみの友人や兄弟・姉妹といつでも交流できるよう支援している。	ホームに来てから同級生や先輩後輩との出会いがあり隣り合った席にしている。デイサービスの知人に会いに行ったり、定期的に馴染みの美容室に行く等、継続した支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係や性格の把握をした上で、利用者同士がいい関係でいられるような仲立ちをしている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同じ登米市内に在住の方も多く、終了しても行事へのお誘いをし参加してもらったり、どこであっても近況をお尋ねしたりと関係性の継続に努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画作成という面においても、本人への聞き取りや希望をきちんと把握し、困難な場合には家族への聞き取りや、必要性からくみ取るよう努めている。	仏壇を持ち込みたい思いに、家族と話し合い、居室に置き、お茶と水を備える事が日課となっている。会話や表情から入居者の思いをくみ取り、本人、家族と話し合い、寄り添いのケアを支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを行い、また前担当のケアマネージャーからも情報提供を受け把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間パターンシートを活用するとともに、職員間の申し送り等で把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族に聞き取ったうえでスタッフとも会議で話し合い、意見を反映し介護計画を作成している。	ケース記録や24時間パターンシートと照らし合わせ、計画書を確認し、会議で話し合い、見直し作成している。体調を崩し、安静対応で一変した入居者の対応を医師と相談し、計画書の見直しを検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間パターンシートの活用し記録、申し送りを記録に残している。モニタリングを3か月に一度行い、見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況を考慮し通院支援や理髪店利用など希望に添えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各種ボランティアや子供会など地域の関わりから活性化している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人および家族の希望で決められており、約半分は協力医院がかかりつけ医で常に連携のできる状態となっている。それ以外でも施設内の状況報告を行い、指示を受けている。	協力医の定期通院は2ヶ月に1回で職員が同行し、薬は毎月処方されている。かかりつけ医と専門医には家族が同行し、情報等は口頭や書面で伝える。訪看の来訪や法人内に看護師がおり、安心感に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師の訪問があり状態確認をしてもらっている。それ以外にも併設DS看護師へ常に状態報告をし、変化時には看てもらったり指示を仰ぎ主治医につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は病棟看護師やOT、PTと情報を共有。地域医療連携室との連携を図対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の時点で終末期の対応・希望について文書で取り交わしをしている。状態の変化や重篤な場合は確認を行っている。	今年度、全入居者、家族に説明し、意思確認の取り直しをしている。急変時は病院に搬送希望や本人の自然な流れで最期を迎えてほしい等、家族より要望があった。何例か看取りを経験しており、職員研修も実施していることで前向きに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に地域消防署の協力のもと、救急講習会やAED講習会を開催し参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内の避難訓練を定期的に行い、地域で開催された協同の避難訓練にも参加している。	防災委員の計画により、通報、図上訓練等を実施している。夜間帯に夜間想定訓練を実施している。目標達成計画に取り上げた、地域の防災訓練に参加し、地域住民の役割など確認できた。	

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に合わせたケア、目立たない羞恥心に配慮するケアに心掛けている。	入浴、排泄時の対応の声掛けや身内の触れてほしくない話題等は、職員からあえて触れないように配慮している。誕生日等、入居者の特別な日にはお洒落をして気分を変える等支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	理念にもあるように常に寄り添い話を聞くことで、その会話の中からでも希望を聞き出し、意思疎通の困難な利用者の思いも感じ取れるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々を尊重し、行事や外出も「行く」「行かない」外食もメニューはそれぞれ決めてもらう、したいことをしそれを支援するを実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	汚れがなくても毎朝の洋服交換の支援や、選択の支援、行事や外出には普段は着ないおしゃれ着を着、時には家族の協力をもらいながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	能力を把握した上で役割を持って準備・食事・片づけを行っている。動作が若干難しい方にもひとつひとつ声をかけ付き添い、なるべく続けられるようにしている。	ホームの畑で採れた野菜や近所からの頂き物を、漬物やお浸し等にして食卓に出す。行事にはお刺身や寿司、麺等入居者の希望に応じ、時には外食、出前もある。食後の口腔ケアは個々に応じた支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	24時間パターンシートを活用した摂取量の把握。他部署所属の栄養士や看護師とも情報交換をして支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・就床時はもちろん食後にも能力に応じた口腔ケアの介助や声がけを行い清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録し時間や状況をみてトイレ誘導し、トイレ排泄を増やしている。特にどの方も退院後のトイレ使用率が上がっていた。	入居者の状態低下はあるがトイレでの排泄支援は継続している。退院時にオムツであっても状態を見ながらトイレ誘導している。夜間帯はコール対応等個々に応じている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を日々把握し、個々に合った形の飲食物の活用やトイレ使用を可能な限り実施し腹圧をかけた排泄に心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴をしたいと希望する時間帯に対応。夜間入浴は勿論、日中でも対応できている。	檜の浴槽で、2日に1回程度の入浴である。夜間入浴の方は、車椅子であるが時間をたっぷりかけて毎日入浴している。拒否の方もなく、入浴時間や温度等個々に応じた支援を実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡・就床時間の取り決めはなく、休みたいときに休むを実施している。個々に応じ照明や空調を調整。眠れない時は温かい飲み物の提供や、職員との会話で安心して休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情などで常に確認し、変化時は主治医に報告・相談している。服薬管理・介助についても誤薬や飲み忘れがない様に日付、名前の読み上げをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事面では能力に応じて行っており、役割にもつながっている。他には裁縫、編み物と行い、外出の好きな方にはその時々に外出も支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は予定がなくても出来る限り対応している。気分転換のドライブや買い物、遠出も計画し出かけいる。家族の方とはお墓参りや買い物などにも出かけている。	敷地内が広く、テラスが四方にあり、日常的に散歩や外気に触れる機会が多い。近隣にイベントが多く天気を見て出かけている。年に1～2回は松島や一関に小旅行に出かけたり、道の駅めぐりのドライブなど楽しんでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物支援や遠出の際のお土産買い、自分で選び買っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に即し電話を掛ける支援を実施。季節の絵手紙書きをしそのはがきで送ったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々とした空間をはじめ、自然光も入り明るく開放感がある環境で過ごしていただいている。室内には季節に応じた花を飾ったり、季節感の出る飾りつけを行う。目の前には畑があり季節が感じられる野菜類の栽培がされている。	吹き抜けの天井で梁が見え、古民家調の共有空間には薪ストーブが焚かれ温もっていた。ホールは四方から光が入り、四季を感じ、見る事が出来る。そこには鉢植えがあり、入居者が世話をし、みんなを和ませている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには通常座るのとは別のテーブルを置き、ソファにかけ2～3人で過ごせたり廊下長椅子では、ちょっと腰かけて職員との会話スペースにもなっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て本人の馴染みの深いものを持ち込み生活していただいている。	居室にはトイレ、クローゼット、洗面台が設えてある。衣装ダンス、テレビ、仏壇等を持ち込んだり、植物を置いて世話をするのを生き甲斐としているなど、入居者が寛げる居室作りがされてある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	障害となるものは出来るだけ省き、安全な環境に努めている。浴室には浴室、と分かる居室にはその人の目印をつけわかりやすい様にしている。		